【実施区域・面積】

福岡県みやま市・1.0052ha

【生態系タイプ】

里山林、二次草原・草地、水田、河川・湖沼、低層湿原・湿地

【実施区域の状況】

矢部川沿いの地域で、対象地は閉校した大学跡地である。大学で使用していた校舎建屋の一部を活用し、ワンヘルスセンターとして設置するほか、保健環境研究所及び動物保健衛生所を新築する。大学でグラウンド等として使用されていたエリアを活用し、「屋外のワンヘルス体験学習・研究ゾーン（仮称）」を整備する。

【目標】

○地域の在来種植物の植栽や水路・ため池の整備から、生物多様性の豊かな1960年代の筑後地域の里地里山及び田園・掘割（二次的な自然）の景観・生態系を再現する。整備後の維持管理を通して、在来種の昆虫や水生生物などの在来種が定着できるような安定的な環境を維持する。

○そうした資源を活かし、人と自然の共生社会を目指して、生物多様性保全の観点からワンヘルスに関する教育・啓発及び研究を行う。

【主な活動内容】

①保健環境研究所の研究職員等による調査・研究　②里地・里山保全体験会、生きもの観察会　③研究発表会

【モニタリング計画】

保健環境研究所における調査・研究業務や、夜間も撮影可能な定点カメラ等も活用し、各エリアにおいてモニタリングを継続する。

【実施体制】

環境部自然環境課において「屋外のワンヘルス体験学習・研究ゾーン（仮称）」を整備し、保健環境研究所等が活動及び管理を行う。



【計画期間】

令和８年3月～令和１３年2月